

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2
発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

教育施設課長 高宮正明

電話番号

0852-22-5909

事務事業の名称	理科教育設備整備事業	
目的	(1) 対象	県立学校の児童・生徒
	(2) 意図	充実した理科教育等を受けられるようにする。
事業概要	県立高校及び特別支援学校の児童・生徒が充実した理科教育及び数学教育を受けるために必要な設備を整備する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 理科備品等の充足率	目標値		14.0	14.2	14.4	14.6	%
		取組目標値						
	式・定義 (現有金額+配分計画)/基準金額	実績値	13.7	14.0	13.1			
		達成率	-	100.0	92.3	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	10,150	12,046
うち一般財源 (千円)	5,076	6,023

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

順次設備整備を実施してきたが、充足率は依然低水準にとどまっている。
H29年度は計画通りに整備を行ったが、現有備品の整理を行った学校が重なり台帳記載の現有金額が減少。結果として全体の充足率が昨年度より低下した。
全体 13.1%
うち、県立高校 14.58%
うち、特別支援学校 7.42%

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・国庫補助制度の手続きや、備品管理台帳の整備を呼びかける担当者向け説明会を開催した。
- ・一部の学校で現有備品の見直しが進んだ。
- ・昨年度より予算枠が拡大した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・学校により充足率にばらつきがある。特に特別支援学校において充足率が低い。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・毎年、各学校に要望調査を行っているが、予算の制約もあり当該年度に整備可能な範囲に限られる。

③原因を解消するための「課題」

- ・関係課とも調整しながら計画的に整備ができるよう予算を確保していく必要がある。
- ・教職員が備品の状況を把握しやすい夏休みの期間に要望調査期間を設定するなど、学校が要望しやすい環境づくりを行っていく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

学校の特色を活かした教育環境を考慮しつつ、関係課と連携し、設備の優先度や必要性を踏まえた効果的かつ効率的な教育環境整備を進めていく。